

勝央福祉会ソーシャルメディア運用ガイドライン

平成 29 年 7 月 10 日作成

1 趣旨

このガイドラインは、勝央福祉会が情報の発信等のためにソーシャルメディアを運用するに当たっての基本原則、トラブルへの対応等について定めるものとする。

2 ソーシャルメディアの定義

フェイスブック（※1）などインターネット上のサービスを利用して、双方向で情報のやりとりを行うことができる情報伝達媒体をいう。

3 運用するソーシャルメディアの種類

勝央福祉会の情報の発信等のために運用できるソーシャルメディアの種類は、原則としてフェイスブックとする。

4 運用全般に関する事項

- (1) ソーシャルメディアの運用は、原則として所属単位で、当該ソーシャルメディアの発行するアカウントを取得して行うこととする。ただし、利用者の便宜を図るために必要と認められる場合は、複数の所属が共通のテーマ等を定めた上で一つのアカウントを取得し、運用することも可能とする。
- (2) ソーシャルメディアを運用しようとする所属は、その内容を法人本部に報告することとする。
- (3) 勝央福祉会公式ホームページ内に、運用するソーシャルメディアのページへのリンクを明記し、このガイドライン等を掲載するとともに、原則として、これらを掲載した勝央福祉会公式ホームページのURLを、当該ソーシャルメディア側のページに明記することとする。
- (4) 取得したアカウントへのログインパスワードの設定に当たっては、推測されやすいものは避け、第三者に知られることのないように厳重に管理し、定期的に変更することとする。
- (5) 利用者があらかじめ同意することが必要な事項について勝央福祉会ソーシャルメディア利用規約を定める。

5 書き込み等に関する事項

- (1) 書き込み等（※3）は、4で定める手続きを経たアカウント（以下「公式アカウント」という。）を使用し、原則として勤務時間内であって運用ポリシーにおいて定める運用時間内に行うこととする。ただし、緊急時などやむを得ない場合の運用については、

その限りではない。

- (2) 書き込み等を行う職員は、次に掲げる事項に留意しなければならないこととする。
- ア 書き込み等を行う情報は正確に記述するとともに、内容について誤解を招かないよう十分に注意すること。
 - イ ウェブアクセシビリティに配慮すること。
 - ウ 著作権、個人情報保護に関する法令を遵守すること。
 - エ 利用者の投稿を引用すること又は第三者が管理し、若しくは運用するページへのリンクの掲載は、当該投稿やページの内容を信頼性のあるものとして受け取られる可能性があるので慎重に行うこと。
 - オ 勝央福祉会職員としての自覚と責任を持つこと。
- (3) ソーシャルメディアを運用する所属の長は、職員が、(1) 又は (2) に抵触する書き込み等を行うことのないよう、十分な監督を行うこととする。

6 トラブルへの対応等

- (1) 書き込み等に誤りがあった場合は、訂正や謝罪の書き込みを行うなど、誠実かつ速やかな対応を行うこととする。また、職員が行った書き込み等が結果的に利用者又は第三者を傷つけ、若しくは誤解を生じさせたことが明らかな場合においても同様とする。
- (2) 勝央福祉会ソーシャルメディア利用規約に定める事項に抵触する書き込み等を発見した場合は、速やかに削除等の措置を行うこととする。
- (3) 勝央福祉会のアカウントのなりすまし(※4)の事例を発見した場合は、当該アカウントを管理するソーシャルメディアの管理者に削除依頼を行うとともに、勝央福祉会の公式ホームページ上で周知することとする。
- (4) 公式アカウントが炎上(※5)状態となった場合は、職員の判断による反論や抗弁は行わず、所属として、必要に応じて説明、訂正、謝罪等の書き込み等を行うこととする。また、対応に時間を要する場合はその旨の書き込み等を行い、無視している等の誤解を招かないようにすることとする。

<用語の解説>

※1 フェイスブック

フェイスブック社 (Facebook Inc.) が運営する、利用者が実名登録をし、日記機能やメッセージ機能を利用して双方向のやりとりができるインターネット上のサービスをいう。

※2 URL

ウェブサイトのアドレスのことをいう。

※3 書き込み等

ソーシャルメディアを通じて、その利用者に対し投稿、情報の転載その他の情報を提供する行為をいう。

※4 なりすまし

他の利用者のふりをして、インターネット上のサービスを利用することをいう。

※5 炎上

自分の投稿に対し批判や苦情が殺到し、收拾がつかなくなる状態をいう。

